

協力会だより

第43号

発行 山梨県立考古博物館協力会

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

発行日 令和元年5月1日発行

電話 055-266-3881

協力会ホームページ <https://www.y-kyouryokukai.jp/>

平成30年度協力会1年間の軌跡



☆ 活動 ☆

- 平成30年度考古博物館協力会総会 (4/14)
- ミュージアムショップ
- ボランティアガイド (4~3月)
- 学校勾玉づくり体験補助 (4~3月)
- こどもまつり (5/3・4)
- 特別展準備作業 (5/11・12)
- 開館35周年記念特別展 (5/19~7/16)
- 常設展復旧作業 (7/20・21)
- Jomon FES 2018-山梨縄文まつり- (11/11)
- 県民の日イベント「JOMONまつり」 (11/20)
- お正月イベント (1/3)
- 考古博物館 de 春まつり (3/3)

☆ 研修 ☆

- 勾玉づくり体験補助研修 (4/19・28)
- ボランティアガイド研修 (前期: 8/29・9/1)
(後期: 10/13・16)
(実習: 2/16・20)
- 夏季企画展勉強会 (8/4・8)
- 秋季企画展勉強会 (10/20・24)
- 冬季企画展勉強会 (12/16・20)
- 県外研修 (11/22)
- 県内研修 (3/23)

平成 30 年度 山梨県立考古博物館協力会総会



4月14日、山梨県立考古博物館協力会総会が開かれ、平成30年度の協力会活動がスタートしました。

総会では、今年度の事業等の話し合いの他に、10年という長い間、当館にご協力いただいている方のご紹介も行いました。また、昨年度ボランティアガイドとして数多くのご協力いただき、実績を積まれた方に、ボランティアガイドマスター証の授与がありました。さらに、ボランティアガイドさんに関わって、ガイド研修をすべて受講していただいた方が、新たにガイドさんになりました。すでに、ガイドさんとしてご活躍されています。



記念講演会では、協力員である甲斐黄金村湯之奥金山博物館館長、出月洋文さんにご講演をいただきました。

『開府 500 年に当たり 甲斐金山遺跡を考える』と題して、甲斐の国における金山の歴史を、金山の初源にあたる武田信虎の時代との関係から丁寧にお話しいただきました。

昨年と同じメンバーで、さらに、お互いの絆を深めていく1年のはじまりになりました。

考古博物館 開館 35 周年記念特別展 『古代アンデス文明展』



考古博物館開館 35 周年記念特別展『古代アンデス文明展』が開催されました。開館当初から協力員さんとしてご協力いただいている方もいらっしゃり、協力員さんにとっても感慨深い特別展になったことと思います。5月から7月にかけて51日間の会期中、延べ357人という多くのご協力をいただき、そのご協力のおかげで来館者の方に楽しんでいただくことができました。会期中以外にも、当館ならではの常設展の移動や撤収作業・復旧作業では、貴重な文化財に触れていただきながらお手伝いしていただきました。本当にありがとうございました。

毎週のようにご協力いただいた中で、協力員さん同士の絆だけでなく、協力員さんと職員との絆も深め、強められたように感じました。これからの協力会がとても楽しみです。



☆輝く笑顔いっぱい!!～1年間の活動～☆

今年度も、たくさんのイベントや、学校見学の際の体験活動補助、展示解説などにご協力いただきました。子どもたちに教えている姿や一緒に楽しんでいただける姿がとても輝いていらっしゃいました。子どもたちや来館者の方も笑顔で活動されたり、展示の解説を聞かれたりして、満喫していただくことができました。イベントや日々の活動、いろいろな場面で協力員の方々に支えられていることを、あらためて実感しました。



【イベントなどでの協力】

考古博物館では、狩猟体験に勾玉づくりと、古代の生活を楽しみながら学べる体験活動が盛りだくさん。その際にも協力員さんが大活躍です。子どもたちに教えてくださるだけでなく、準備や片付け、縄文風ｽｰﾌﾞなどの下拵えなど、見えないところでもたくさんのお手伝いをいただいています。子どもたちと一緒に笑顔いっぱいで活動されています。

【日々の活動】

校外学習など、学校見学の時に児童・生徒さんへの勾玉づくりや火起こし体験のお手伝いをいただいたり、展示の案内や生け花・干支の置物・土器づくりなど様々な形で当館を盛り上げてくださったりしています。夏休みや特別期間中は、ミュージアムショップの販売やポスターの張り替えなども行ってくださいます。



☆ともに学ぶ ～みんなと一緒に勉強会・研修会～☆

☆協力会では、勉強会や研修会を開き、みんなと一緒に楽しく学んでいます☆

★企画展・特別展 勉強会★

春季・夏季・特別展・冬季の展示会に、感謝の気持ちとしてそれぞれ 2 回ずつ勉強会を開いています。実際に展示物をみながら学芸員さんの解説を聞き、その都度質問できるので、質問・意見が飛び交う活発な勉強会になっています。



★ボランティアガイド研修★

来館者の方の質問に答えたり、展示の案内をしたりするために、年に3回、研修会を開きます。ガイドさんは熱心な方ばかりで、ご自身の知識や力量をいつも高められています。その知識の幅広さや深さに、驚かされます。喜んでいただいたり、楽しんでいただいたりするために、楽しみながらも努力されている様子が伝わります。



★勾玉づくり・火起こし研修★

学校見学では、勾玉づくりや火起こし体験をよく行います。大人数の場合、職員だけでは間に合いません。そんな時も協力員さんの出番です!!児童・生徒のみなさんに教えていただくため、協力員の方が体験をし、教え方等を身につけていきます。ご自分で作成した勾玉の出来をみて、みなさん首を傾けたり、満足したりしながら首からさげて帰られました。



☆県外研修旅行 ～ 松戸市立博物館・特別史跡加曾利貝塚 11/22 ～☆

協力会では県外での研修も行い、楽しく学び、知識を深めています。今年度は、千葉県松戸市立博物館と千葉市加曾利貝塚の見学に行きました。朝の交通渋滞により、松戸市立博物館では駆け足の見学になってしまいましたが、「また個人的に来よう。」という声が多く聞かれ、短い時間でしたが見学してよかったと感じました。昼食をとり、パワー満タンで加曾利貝塚を見学しました。『生』の貝塚の断面や住居跡を見学でき、古代に思いを馳せる感動的な研修でした。

P4～6に協力員さんの研修記を掲載させていただきます。



飯田 敬さん

『初冬に加曾利貝塚を訪ねて』

忠実に再現したという雑木林の中に加曾利貝塚はあ
る。おそらく 5~6 所帯が数千年にわたり世代交代し
て生活していたであろう。私達の生活からすると、気
の遠くなりそうな時間の進み方である。しかし、彼ら
なりに一生懸命生きて来た。ボランティアガイドの説明
に薄っぺらであるが、私なりに納得する。

圧巻は貝塚の断面である。調味料として利用された
というイボキサゴ、ハマグリなどが何層にも重なって
いる。その下に住居跡もあり、なんとも不思議である。
これらの貝類は木の実に共に貴重な食料であった。私
より結構、贅沢な物を食していたのでは。住居跡の重
なり具合も屋内に保存されており、この遺跡だけで縄
文時代の暮らしぶりが、すべてわかる。発掘された加
曾利式土器・堀之内式土器などは、土器研究の基礎とな
っている。まだ発掘の初期段階だそうだが、できるだけ
早く全容を知りたい。往復とも渋滞に遭い、1時間
余り遅れましたが、充実した1日でした。企画された
事務局の方々、ありがとうございました。

小方 愛江さん

本日は県外研修旅行に参加させて頂き、ありがとうございました。

最初は、松戸市立博物館の見学。道路状況により、
30分位学芸員さんの熱心な説明を受け、聞かせて頂き
ました。昼食も素晴らしい料理を頂き、ごちそう様で
した。

午後は加曾利貝塚に移動し、2班に分かれて、ボラ
ンティアガイドさんの説明を聞きました。考古博の土
器と違って、加曾利 E 式土器は文様の変化に注目しま
した。次は大型貝塚と集落がまるごと残る拠点集落。
東京ドーム三つくらいと言う、大規模な所で発見され
た土偶・石棒・装身具・特殊な土器など発見されると説明
を受けました。広いところなので、ガイドさんに付い
ていくのに大変でした。

また、素晴らしい所に参加させて頂き、職員の方に
感謝いたします。ありがとうございました。

北村 正仁さん

最初に訪れた「松戸市立博物館」は、限られた時間
の中、駆け足でしたが、再度訪れる目標になりました。昼
食では、久々の和食膳を頂き、満足して本日のメンテ
ームでもある加曾利貝塚に到着。早速マスコットの「加
曾利犬」が歓迎してくれました。声に出して読むと「カ
ソリーヌ」となりました。ポンジュール！

私的には、学生時代よこしまな目的で、ここで発掘の
下働きをしていたのですが、50 数年も前ですので、全
く違う風景でした。これまで貝塚はゴミ捨て場だと思っ
ていましたが、ボランティアガイドのお話では、何らか
の目的を持って意図的に築かれた環状集落で、当時の儀
礼や死生観、食生活など、現代人には理解できないもの
だと云うことです。

イボキサゴという小さな巻貝を今度食べてみて、加
曾利人の気持ちを味わってみようと思いました。

飯田 学さん

「ここが?」小高い丘に雑木林、点在する建物、加曾
利貝塚の第一印象だった。貝塚を知ったのは小学校で習
った大森貝塚、短い文と暗い写真、ゴミ捨て場とのイメ
ージがあった…ガイドさんの説明により、この貝塚の凄
さが徐々に解ってきた。縄文時代中期の北貝塚、後期の
南貝塚の形成時期の違いと堆積構造の違い、特に貝層と
竪穴住居の関係、調味料として利用されていたキサゴの
純貝層に興味があった。それにしてもなぜ?こんな近い
場所で少人数の住民が何千年も生活をしていたのだら
う。船で何kmも下り、海で貝の採取、雑木林は木の実の
宝庫、猪等々の豊かな食材があったからこそと思うが、
人と人のいさかいは皆無ではなかっただろう。貝塚の発
掘面積はわずかに 8%。これからの発掘調査が進むにつ
れてすばらしい“掘り出し物”を心より期待している。
スタッフのみなさんありがとうございました。

乙黒 孝江さん

15ha 超の加曾利貝塚は広がったけれど、もっと驚い
たのは 2000 年もの間継続して集落が作られていたこ
とだった。その結果 2m 超の貝の山が作られたとか…。
海岸線から 7 km もある内陸部になぜ 2000 年もの間住
み続けていたのだろうか?

この頃、未曾有の〇〇とか 100 年に 1 度の〇〇とか
聞くし、自分の中では 100 年は長いと思っていたが、
歴史の流れの中では、ほんの瞬きするくらいのものかも
しれない。博物館の中に、黒曜石が陳列されていて神津
島産と言われ、秋のイベントの来館者は二日間で約
7,000 人と言われた。あっちへ行って驚き、こっちへ
来て驚き…とても楽しい 1 日でした。

們 月美さん

今回の研修は、事前に資料をいただいて参加しまし
た。

加曾利貝塚は、現地保存型の野外博物館で、中に入
るといきなり 5000 年前の実物の貝塚の断面が目の
前にあり、思わず大声を出してしまいました。発掘調
査は一部だけなので、これからの調査が楽しみです。
「百聞は一見に如かず」で、大変感動しました。参加
してよかったと思った、楽しい 1 日でした。



窪寺康一さん

心待ちにしていた今回の県外研修は、加曾利貝塚の研修と云うことで、大変興味を持っていました。それというのも、貝塚遺跡を見ることは初めてであり、しかも加曾利式土器の命名地であるからです。現地ガイドの案内により、各展示施設を周回して説明をうけ、実際に見た貝塚断面の保存に感心しました。

今までの私の認識では、貝塚の貝はアサリ、ハマグリ、カキといった直接的な食べ物と思っていましたが、出土する貝の多くが「イボキサゴ」という小さな巻貝であったことに、認識を新たにしました。今回の研修では、事前に資料の郵送があり大変参考になりました。昼食も美味しくいただき有意義な一日を過ごし、計画された各位に感謝いたします。

丹澤 恵美子さん

特別史跡の加曾利貝塚。事前にいただいた資料で、『直径140mでドーナツ形をした縄文時代中期の北貝塚と、直径190mの馬のひづめの形をした後期の南貝塚を含む集落遺跡であること。およそ2000年におよぶ長い期間、継続して集落が営まれていたこと』を知りました。私が一番興味を抱いたことは、ムラ（集落）が2000年もの長い間営まれていたということです。今年は西暦2018年。このことを考えても、いかに長くムラが続いたか驚くばかりです。この時代にも自然災害や他のムラとの争いもあったと思うのですが。

当日現地を見学しガイドさんの説明を伺って、その地域が縄文時代にきわめて豊かな自然に恵まれていたことを知りました。豊富な資源に恵まれた環境が、ムラを育み継続することができたのでしょうか。海の幸や山の幸をうまく利用し、自然と共に生きた当時の人々。その地はとても暮らしやすいところだったのだですね。

加曾利貝塚の発掘はまだ7%とのこと。今後の発掘で何がわかるのか・・・夢が膨らみますね。

最後になりましたが、この研修を企画・運営された事務局の皆様に感謝申し上げます。

小林 愛子さん

今回の史跡めぐり研修、千葉県松戸市立博物館とく加曾利貝塚はその昔、若き女子学生だった私は、教育実習生として4~5人の実習生と共に千葉市立鶴沢小学校に約一ヶ月通いました。その折、担当した3年生の30~40名と校外学習の一環で加曾利貝塚に遠足があり、指導教諭の補助として引率しました。あの広い草原で子どもたちと遊び回り、楽しい時を過ごしたことが断片的に思い出され懐かしく、また数十年の時を経て、そこを訪ねられる…という幸運に心ときめいていました。

当時訪れた時には、貝塚に関する説明も学習もなく、自分なりに古代人の食生活の残滓が沢山ある、あるいは出土したところくらいの浅い思い出しかありませんでした。今回史跡として整備・保存され、また、展示物を見聞き改めて古代の人々の暮らし、営みに思いを馳せることができましたこと、深く感銘いたしました。

この計画を企画・実施していただいた職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

高木 りえさん

11月22日、木曜日 曇り時々雨。松戸市立博物館に、少々遅れて到着。30分程のかけ足見学。旧石器～縄文の人々が広域な流通を経て、色々な石材を使用していた事が、分かりやすく展示されていました。山梨県で馴染み深い、霧ヶ峰産黒曜石の小さな小さな石鏃があり、大切な石材として利用していたのだと思いました。

加曾利貝塚では、ボランティアガイドさんの案内にて、特別展示『あれもE これもE』E式の移行の編年、手に取って見られる土器片、骨角器、貝製品、貝類、縄文犬の骨を見学。野外施設では、北貝塚の廃絶住居の上の主にイボキサゴという小さな貝の膨大な堆積。南貝塚では、ハマグリ、アサリ、シオフキなど大きな貝の堆積。北と南では貝塚の作られた意味と違いを感じました。

あわただしい中での見学となりましたが、とても有意義で楽しい1日でした。ありがとうございました。

保坂 和香子さん

四方を山に囲まれている山梨の遺跡と海の近くにある加曾利貝塚の違いは歴然だった。海からの恵みを得られないが石が豊富な山梨、石が貴重ではあるが貝など海のものが豊富にあった千葉。膨大な量の貝の塚を目の当たりにした時、食生活が豊かであったことが容易に想像でき、海のなかった土地にいた我々山梨の祖先に同情してしまった。土器については、大型で華麗な装飾をつけた水煙文土器を代表とした造形美豊かな山梨のような土器は見当たらず、改めて山梨の祖先の土器に対する思いの強さ深さを感じた。

貝層断面の展示や住居跡をそのまま保存し展示する方法は、実物を見ることができると当時の様子を想像する大きな助けとなった。考古博物館の周囲の貴重な遺跡もこれまで以上に周知されていければ、と思った。来館者を増やすには展示方法、ガイドの範囲などの工夫も必要なのかな、と感じた。

未だ知らないことが多く勉強不足ではあるが、少しずつ知識を増やして行きたい。今年は縄文時代に光が当たり東京国立博物館の縄文展で堂々とした存在感を放っていた山梨の土器を多くの人に見て感動してもらえたのではないかとひとり満足している。

藤原 尚美さん

今回の研修旅行で二つの施設を見学しましたが、印象に残ったのは加曽利貝塚です。縄文時代中期を代表する土器や貝塚として「加曽利」と言う名前は知っていましたが、実際に見学し、説明を受けてとても勉強になりました。圧倒されたのは、貝塚の内部を見ることのできる南と北の野外観察施設です。厚く積み重なった貝塚の断面や竪穴住居の跡がそのまま保存されていました。約 2000 年にわたってここで暮らしていた人々の生活の一端を知り、思いをさせました。また、宅地造成の計画を止めさせて、貝塚の破壊の危機を救った多くの人々の努力も知ることができました。以前から行きたかった加曽利貝塚や松戸市立博物館の見学を計画し、実施していただき、ありがとうございました。

穂坂 はるみさん

今回、初めて協力員県外研修に参加させていただきました。千葉市にある縄文時代の集落遺跡である加曽利貝塚は、東京ドーム 4 個分の広い敷地に当時の木の DNA を使って植えた樹木が生い茂り、紅葉を終えた落ち葉がフカフカしていました。貝塚には、出汁に使われたというイボキサゴという大量の貝と共に動物の骨や人骨が埋められ、何メートルもの厚い層を成していました。私は、貝塚は古代人のゴミ捨て場だと思っていました。でも、そもそも貝殻が古代人にとってゴミだったのかどうかわからない中で、私達とは違う価値観や文化が存在した事を思うと、この貝塚は古代人にとってどんな意味を持っていたのでしょうか？

改めて地中から発見された物や形の中から当時の人々の生活や文化を想像することは本当に楽しい！と感じました。そして、久々のバス旅行では、あまりお会いできない協力員さんから発掘や地層、ほうじ茶の話聞くことができ、加えて美味しいお昼ご飯というオマケも付いて、有意義で楽しい 1 日を過ごすことができました。企画していただいた事務局の皆様、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

★ 県内研修～甲府城跡・石垣展示室 3/23～★

協力会として、今年度最後の行事、県内研修を 3 月 23 日に行いました。当日は、それまでの暖かさが嘘のような寒い日になりました。

今年度の県内研修は、国指定の史跡となっただけの甲府城跡と、県庁防災新館地下一階にある石垣展示室を研修地に行きました。二グループに分かれ、甲府城案内仕隊の方に案内していただきながら見学しました。仕隊の方の話に聞き入りながら質問も飛び交い桜が咲く中、有意義な時間を過ごしました。幼いころ、庭のように遊んでいた方もいらっしゃる、懐かしさも感じながらの研修になったことと思います。協力会として、学びながら楽しく、よい一区切りを迎えられたと感じました。下記は、研修記の紹介です。

内藤 敏夫さん

稲荷櫓脇の石垣に掲げられた横幕の四つの家紋。甲府城を支えた石垣。城を訪ねたときにいつも思い出すのが「古城」の歌です。「松風騒ぐ丘の上、古城よ独り何憊ふ、栄華の夢を胸に追い、ああ、仰げば侘びし天守閣～略～」。一読あれ！

参加者多数にて、楽しい研修でした。分かりやすい研修資料や引率等、事務局や職員の皆さんに感謝申し上げます。次回の研修を楽しみにしています。

田丸 進さん

東日本では最初期に高石垣で築かれた城であり、その見事な高石垣、築城者や築城の経緯、歴代城主等々から、各時代で重要な城であることがよく解った。当時の物は石垣しかないが、それは十分に名城と言える威厳を備えている。山梨の近世遺跡として誇っていきたい。

石田 仁さん

集合地点が近かったので、今回の甲府市内の協力会の県内研修に参加いたしました。甲府城も石垣や各所の門などの工事を経て、荒城の月のような頃よりも、だいぶ立派になったように思われました。御案内仕隊の方のお話では、東側の石垣の高さ 17m は、関東など東日本地域では、最も高さのある威容を誇っているとのことでした。天守台に登ると長禅寺の五重塔など、まわりの景色が良く見ることができました。今年は開府 500 年、戦国や江戸時代も県都甲府の歴史ですが、次回以降の県内研修では、もっと考古学に関連した遺跡や古墳などを訪ねて勉強していきたいと思いました。関係者の皆様、有難うございました。

山縣 仁美さん

今年度の最後の活動として、甲府城跡を案内していただきました。事前にくわしい解説文をいただいたうえに、実地に説明をお聞きして、特に甲府城の石垣のすばらしさを知りました。これからは、少し自慢話ができそうです。多くのメンバーが参加していたので、久しぶりにお会いして、おしゃべりにも花が咲き、楽しいひとときでした。寒空の中、準備、お世話くださった皆さまに感謝いたします。

★お待ちしております!!~ボランティアガイド~★



展示をみながら「これは何だろう?」、「何に使ったんだろう?」、「なんでこんな形なの?」などなど、思われたことはありませんか?! そんな時は、ボランティアガイドさんの出番です! ボランティアガイドさんは、みなさんが疑問



に思われたことや興味を抱かれたことにお答えしています。また、「常設展のはじめから解説をして欲しい!」や「この時代だけ詳しく教えて欲しい!」など、来館者の方のご要望にもお応えしながら展示解説を行っています。ぜひ、ガイドさんと一緒に新しい発見をしたり、古代の生活や当時の人々の想いに触れたりと実りある時間を過ごしていただきたいです。ガイドさんたちも楽しみにお待ちしております。

★華やかに お出迎え★



山地千恵子さん作
網の中の海老は
野呂忠敏さん作

受付の方と一緒に、エントランスホールを華やかに可愛らしくしてくださっているのが、協力員さんの作品たちです。心が朗らかになりますね。

お越しの際はこちらもぜひ、ご覧ください!!



原田みゆきさん作



北村正仁さん作



北村正仁さん作



★楽しい一場面★



◆ 編集後記 ◆

今年度も、様々な場面でたくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございました。

協力員さんの笑顔や一生懸命な姿に、こちらも楽しく笑顔になり、元気をいただきました!!とても楽しい1年間でした☆

来年度の協力会も楽しみです!!これからもよろしく願いいたします。 【事務局】